

抽出率・回収率

PT調査の抽出率とサンプル数に関する基本的な考え方

サンプル調査の設定

- PT調査は、調査対象となる母集団(主に圏域内居住者)の特性を捉えるために、**必要なサンプル数を取得する標本調査**である。
- 公的な政策検討に活用するためには**偏りを少なく標本を抽出することが重要**であり、サンプル数の設定において留意が必要。
- なお、人が何のために・どうやって動いたか、移動量に着目するため、**母集団総数は圏域内の総トリップ数**を用いる。

所要のサンプル数に満たない場合

- 算出式から導かれるサンプル数より回答数が少ない場合、**統計的精度が確保されない(全体の動きが表現されていない)**と解釈される。
- PT調査では、**分析の基準となるゾーンにおいて目的別・手段別の発生集中交通量の精度を確保することを目指す。**

カテゴリ数を変更した場合の影響

- 仮に、目的数・手段数・ゾーン数といった**カテゴリの数を減らした場合、抽出率が減少し、調査費用・分析費用の削減が見込める。**
- 一方、**カテゴリ数を減らすことは把握できる事象や分析の可能性を狭めることに繋がるため、慎重な判断が必要となる。**

「移動の目的」、「利用される交通手段」など、**地域の移動の実態を踏まえてカテゴリ数を検討し、「掛かる調査費用」や「分析可能性」を考慮の上、道央都市圏に適した抽出率を設定する。**

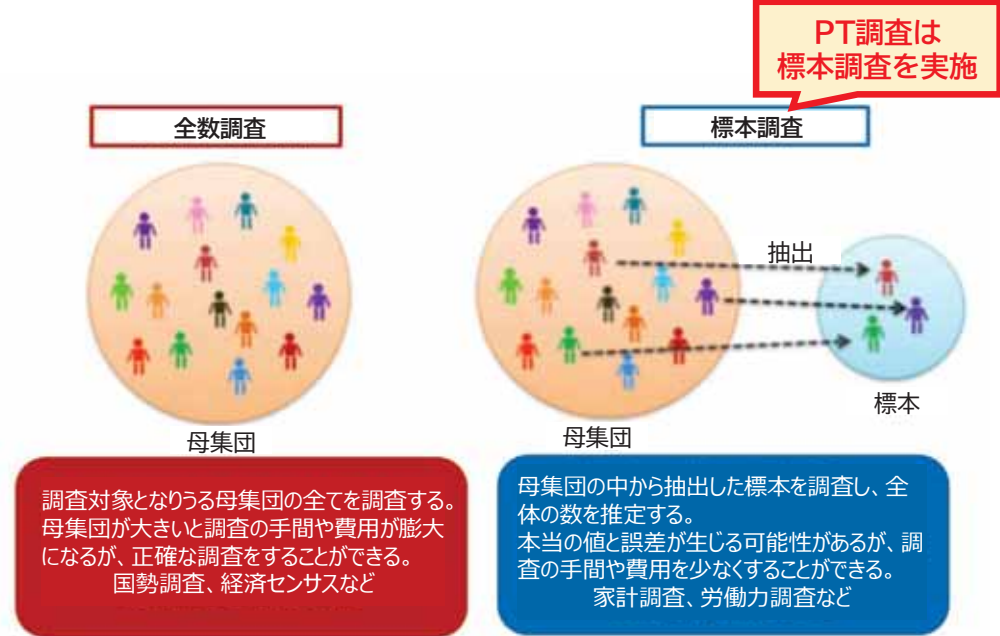
【抽出率の算出式】 K:信頼係数、RSD(A):相対誤差20%を固定

$$r = \frac{1}{\frac{RSD(A)^2 \times N}{K^2 \times (ZK - 1)} + 1}$$

N(母集団総数)が ↓ ⇒ 抽出率 ↑

ZK(カテゴリー数)が ↓ ⇒ 抽出率 ↓

r : 抽出率 RSD(A) : 相対誤差20%
K : 信頼係数 パーソントリップ調査では95%(K = 1.96)
N : 母集団総数 (都市圏総トリップ数[トリップ/日])
ZK : カテゴリー数 ([目的分類数] × [交通手段分類数] × [基本ゾーン数])



▲全数調査と標本調査

出典:総務省統計局HP なるほど統計学園

第5回PT調査の抽出率と標本数

【参考】他圏域との比較

都市圏	調査年	主な調査方法	区分	5歳以上人口	世帯数	カテゴリー数			標本率
						ゾーン	目的	手段	
三大都市圏	東京	H20	東京区部	8,123,917	-	265	5	4	1.90%
			政令指定都市及びその周辺の人口集積の高い地域	16,248,696	-	720	5	4	2.53%
			上記以外	10,249,563	-	670	5	4	1.02%
	近畿圏(京阪神)	H22	各府県共通	19,913,940	8,863,959	1100	4	4	3.50%
			人口の少ない地域				4	4	市町村毎
	中京	H23	愛知県	4,879,120	-	206	4	4	2.46%
			北設楽3町村	10,619	-	3	4	2	7.49%
			岐阜県	1,690,835	-	35	4	4	1.22%
			三重県	800,778	-	46	4	4	3.32%
			名古屋市	2,164,831	-	121	4	4	3.23%
地方中核都市圏	松本	H20	郵送	431,000	169,886	51	4	4	6.40%
	福島	H22	郵送	450,465	-	84	3	3	6.26%
	静岡中部	H24	郵送	1,056,547	438,713	-	-	-	6.20%
	高松広域	H24	郵送	921,016	403,817	122	4	4	8.20%
	熊本	H24	熊本市	700,046	302,413	90	4	4	7.40%
			西原村	6,445	2,221	43	1	1	8.60%
			その他	280,110	102,271	(OD)	1	1	6.80%
	大分	H25	郵送	705,899	305,332	117	4	4	9.20%
	群馬	H27	市街化区域または鉄道駅沿線の地域(エリアA)	1,082,239	-	167	4	4	8.79%
			上記以外の地域(エリアB)	805,733	-	114	4	2	4.44%
			北部地域	145,517	-	27	4	2	4.53%
地方都市圏	長野	H28	郵送	571,583	238,723	67	4	4	7.04%
	苫小牧	H21	訪問	209,159	100,308	50	4	2	6.60%
	釧路	H22	訪問	208,097	107,049	61	4	2	8.19%
	北見・網走	H25	訪問	196,831	97,762	50	4	2	8.57%
	室蘭	H28	郵送	184,238	98,333	67	4	2	9.20%

▲平成20年以降に実施されたパーソントリップ調査の標本率

出典：総合都市交通体系調査の事例集(国土交通省都市局都市計画課都市計画調査室 平成30年6月)

※ 回収率を考慮しない標本率で比較

道央都市圏PT調査の標本率

【第4回PT調査】

5歳以上人口(人)	カテゴリー数			抽出率(%)	必要サンプル数(人)
	ゾーン	目的	手段		
2,363,412	108	5	5	3.95	93,390

訪問配布・訪問回収

【第5回PT調査】

5歳以上人口(人)	カテゴリー数			抽出率(%)	必要サンプル数(人)
	ゾーン	目的	手段		
2,507,067	118	5	4	3.50	87,744

Web・郵送を併用(予定)

- 過去のPT調査では、**地下鉄の利用者数を把握するため**に、地下鉄とJRを分離した**交通手段分類数を5として実態調査を実施**。(今回調査では改札機データを活用することで乗降客数を把握できる予定。)
- 札幌市の鉄軌道網(JR・地下鉄)や統計データの活用を踏まえると、**交通手段分類数を4として交通需要予測が可能**であり、調査の経済性も考慮してカテゴリー数を整理。

目的

通勤と通学では、トリップの属性・量・分布・手段に明確な相違があるものの、**通勤・通学を合わせて目的4分類**としている圏域が多い。

手段

他圏域では、札幌でいう**JRと地下鉄をまとめて「軌道系」とする**圏域が多い。積雪寒冷地である道央都市圏では、JRと地下鉄を分けて集計している。

道央都市圏PT調査における想定回収率の検討

帯広圏PT調査を踏まえた道央PT調査の回収率の検討

- 調査票の想定回収率は第2回帯広圏PT調査(R4)と第4回道央都市圏PT調査(H18)の回収状況を参考に、大ゾーン毎に回収率が異なることを想定し設定。(中央区を15%、中央区以外の札幌市を21%、周辺市町村を24%と仮定)

※ 全国他圏域ではより高い回収率を達成しているPT調査も多くあるため、配布世帯数を多く見込んだやや安全側の設定。

	人口 (人)	配布世帯数 (世帯数)	回収世帯数 (世帯数)			回収率 (%)		
			郵送	web	合計	郵送	web	合計
帯広市	164,480	24,256	3,565	1,588	5,153	14.7	6.5	21.2
音更町	43,207	5,539	902	357	1,259	16.3	6.4	22.7
芽室町	18,091	1,957	379	176	555	19.4	9.0	28.4
幕別町	24,597	3,262	568	222	790	17.4	6.8	24.2
合計	250,375	35,014	5,414	2,343	7,757	15.5	6.7	22.2
帯広市以外	85,895	10,758	1,849	755	2,604	17.2	7.0	24.2

▲帯広圏PT調査の回収率(web併用)

◇ 圏域の母都市である帯広市の回収率(実績)を反映

「中央区以外の札幌市」は、帯広市の回収結果を反映
➤ 想定回収率を21%と設定

◇ 母都市と周辺市町村の回収状況の違い(実績)を反映

「札幌市以外の周辺市町村」は、圏域の母都市と周辺都市の関係から、帯広市以外の回収結果を反映
➤ 想定回収率を24%と設定

	対象者数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)
札幌市中央区	18,477	8,191	44.3
中央区以外 の札幌市	105,252	66,803	63.5
周辺市町村	40,183	27,753	69.1
計	163,912	102,747	62.7

▲第4回道央都市圏PT調査の回収率
(訪問配布・訪問回収)

◇ 中央区と中央区以外の回収状況の違い(実績)を反映

「札幌市中央区」は、前回調査の経験から、「中央区以外の札幌市」との回収比率の違いを反映
➤ 想定回収率を15%(21×0.7)と設定

$$44.3/63.5=0.70$$

- 回収率を考慮した抽出世帯数の検討
- ❑

全国都市交通特性調査の1,500世帯と全国道路・街路交通情勢調査との重複を考慮するとともに、送付戻り件数などによる予備係数を10%とした場合、抽出世帯数は276,188世帯となる。

❑

令和7年秋の調査実施に向けて、引き続き関係者と情報共有や調整を図りながら調査票配布数を管理する。

都市名	全人口 (人)	5歳未満 人口 (人)	5歳以上 人口 ① (人)	世帯数 ② (世帯)	目標 抽出率 ③	想定目標 抽出人口 ④=①×③ (人)	想定 回収率 ⑤	想定有効 抽出人口 ⑥=④／⑤ (人)	想定回収率を 考慮した 抽出率 ⑦=⑥／①	想定目標 抽出世帯数 ⑧=②×③ (世帯)	想定 回収率 ④	想定回収率 を考慮した 抽出世帯数 ⑨=⑧／⑤ (世帯)	想定回収率を 考慮した 抽出率 ⑩=⑨／①	全国PT 重複分 ⑪	道路交通 センサス 重複分 ⑫	予備係数 ⑬=⑨× 0.1	抽出世帯数 ⑭=⑨+⑪+ ⑫+⑬
中央区	243,784	7,142	236,642	150,899	3.5%	8,282	15%	55,213	23.33%	5,281	15%	35,207	23.33%	69	1,509	3,521	40,306
北区	286,105	9,413	276,692	156,187	3.5%	9,684	21%	46,114	16.67%	5,467	21%	26,033	16.67%	70	1,249	2,603	29,955
東区	261,567	8,941	252,626	146,041	3.5%	8,842	21%	42,105	16.67%	5,111	21%	24,338	16.67%	67	1,022	2,434	27,861
白石区	213,108	6,955	206,153	126,369	3.5%	7,215	21%	34,357	16.67%	4,423	21%	21,062	16.67%	58	885	2,106	24,111
豊平区	225,538	7,113	218,425	132,799	3.5%	7,645	21%	36,405	16.67%	4,648	21%	22,133	16.67%	61	1,062	2,213	25,469
南区	134,686	3,639	131,047	73,286	3.5%	4,587	21%	21,843	16.67%	2,565	21%	12,214	16.67%	33	513	1,221	13,981
西区	218,682	7,613	211,069	119,659	3.5%	7,387	21%	35,176	16.67%	4,188	21%	19,943	16.67%	55	957	1,994	22,949
厚別区	124,860	3,218	121,642	66,454	3.5%	4,257	21%	20,271	16.66%	2,326	21%	11,076	16.67%	30	532	1,108	12,746
手稲区	141,407	4,559	136,848	71,294	3.5%	4,790	21%	22,810	16.67%	2,495	21%	11,881	16.66%	32	499	1,188	13,600
清田区	111,561	3,267	108,294	53,861	3.5%	3,790	21%	18,048	16.67%	1,885	21%	8,976	16.67%	25	431	898	10,330
札幌市計	1,961,298	61,860	1,899,438	1,096,849	3.5%	66,479	20%	332,342	17.5%	38,389	20%	192,863	17.58%	500	8,659	19,286	221,308
小樽市	108,872	2,263	106,609	61,575	3.5%	3,731	24%	15,546	14.58%	2,155	24%	8,979	14.58%	500	431	898	10,808
岩見沢市	76,990	1,833	75,157	41,149	3.5%	2,630	24%	10,958	14.58%	1,440	24%	6,000	14.58%		288	600	6,888
江別市	119,320	3,853	115,467	59,460	3.5%	4,041	24%	16,838	14.58%	2,081	24%	8,671	14.58%		416	867	9,954
千歳市	97,665	3,747	93,918	51,406	3.5%	3,287	24%	13,696	14.58%	1,799	24%	7,496	14.58%	500	308	750	9,054
恵庭市	70,312	1,144	69,168	34,921	3.5%	2,421	24%	10,088	14.58%	1,222	24%	5,092	14.58%		244	509	5,845
北広島市	57,470	1,555	55,915	28,205	3.5%	1,957	24%	8,154	14.58%	987	24%	4,113	14.58%		169	411	4,693
石狩市	57,984	1,838	56,146	28,412	3.5%	1,965	24%	8,188	14.58%	994	24%	4,142	14.58%		170	414	4,726
当別町	15,445	301	15,144	7,506	3.5%	530	24%	2,208	14.58%	263	24%	1,096	14.6%		53	110	1,259
南幌町	7,378	201	7,177	3,523	3.5%	251	24%	1,046	14.57%	123	24%	513	14.56%		25	51	589
長沼町	10,336	244	10,092	4,970	3.5%	353	24%	1,471	14.58%	174	24%	725	14.59%		35	73	833
新篠津村	2,913	77	2,836	1,378	3.5%	99	24%	413	14.56%	48	24%	200	14.51%		11	20	231
周辺市町村		17,056	607,629	322,505	3.5%	21,265	24%	88,606	14.58%	11,286	24%	47,027	14.58%	1,000	2,150	4,703	54,880
合計	2,585,983	78,916	2,507,067	1,419,354	3.5%	87,744	21%	420,948	16.79%	49,675	21%	239,890	16.9%	1,500	10,809	23,989	276,188

▲抽出率・抽出人口・抽出世帯の整理

地域毎に
想定回収率を設定

対象者として
抽出する世帯数

実際の抽出世帯数=⑨+全国都市交通特性調査による世帯数+②×全国道路・街路交通情勢調査重複率+⑨×予備係数

全国都市交通特性調査重複分:全国都市交通特性調査では札幌市500世帯、小樽市500世帯、千歳市500世帯を抽出予定であり、それらを重複分として見込む、札幌市の区別の値は②世帯数構成比で割り振った。

全国道路・街路交通情勢調査重複分:R3調査時の市区町村別調査票数から重複率(道央都市圏全体で0.7%)を設定し算出した。

予備係数:送付戻り件数などを考慮し予備分として10%を見込む

広報計画

第4回道央PT調査時における広報等

- 第4回道央PT調査(H18)は、ポスター・チラシ、広報誌、テレビなど複数の手法による広報活動を実施。
- 首長の顔写真入り案内文、公印入りあいさつ状、訪問調査員の身分証明書の作成・携行など、調査の信頼性向上策を実施。

○ 首長の顔写真入り案内文、公印入りあいさつ状、訪問調査員の身分証明書の作成・携行など、調査の信頼性向上策を実施。



道央都市圏 パーソン トリップ 調査

みんなであつくり
未来の交通



交通実態調査にご協力ください

**パーソン(人の)トリップ(動き)調査とは、
みなさんの生活から考える交通調査です。**

パーソン・トリップ調査とは「どのような人々が、どこからどこへ、どういった理由で、どんな交通手段を使って移動したか」を把握することを目的とした調査です。

調査結果は将来のまちづくりや交通のあるべき姿を検討する大切な資料として活用させていただきます。

今回は、道央都市圏にお住みな方から、毎月、約1万5千名の方を抽出し、調査対象とさせていただきます。

調査対象と指定された方には、期間中アンケート調査員が伺いますのでご協力をお願いするべく訪問いたします。

調査対象

平成18年10月

調査機関 北海道・札幌市
道庁機関 道庁交通課 北海道開発局 小樽市
三好市 十勝庁 釧路市 苫小牧市 札幌市
北見市 空知庁 網走市 紋別市

ホームページ: <http://www.dohoh-pt.jp/>

[illegible][illegible]

▼あいさつ状(公印入り)

▲ 第4回道央都市圏PT調査のチラシ

▲ 案内文(首長の顔写真入り)	
調査員身分証明書 (写真添付) 2.5cm×2.2cm No. (有効期間: 平成18年10月24日 ～12月31日) 氏名: _____ 上記の者は、札幌市が発注する「道央都市圏バーセントリップ調査(交通実態調査)」の調査員であることを証明する。 平成18年10月24日 札幌市長 上田 文雄 印	注意事項 ① この証明書は、「道央都市圏バーセントリップ調査(交通実態調査)」の調査員であることを証明するものである。したがって、この調査の目的以外に使用することはできない。 ② 調査員は、この調査によって知り得た情報を第三者へ提供してはならない。 ③ 調査員は、調査時に本証明書を常に携帯し、関係人の請求があった場合には、これを提示し調査員であることを証明しなければならない。 ④ 調査員は、この証明書を他人に貸与したり、譲渡してはならない。 ⑤ 調査員は、受け持りの調査が終了次第、直ちにこの証明書を返却しなければならない。

▼再訪問のお知らせ

再訪問についてのお知らせ

様	月	日
---	---	---

先に、パーソナルトリップ調査（交通安全調査）についてご協力をお願いした
またし道東市郡パーソナルトリップ調査実施本部の調査員でございます。
本日、交通安全についての調査のため、お伺いさせていただきますが、お
留りでしたらためて。

月	日	午前 午後	時間
---	---	----------	----

お伺いさせていただきます。その際よろしくご協力下さいませうお願い申
します。

調査についてはお問い合わせ等は、上記の調査実施本部へお願いします。

道庁先頭
→連絡先→
道東市郡パーソナルトリップ調査実施本部
(北海道・札幌市・中央区)
電話（フリーダイヤル） 0120-940-1880

〒060-0809 札幌市北区北九条４丁目７－４
（近中央大通り　１０分）

電話番号	担当調査員

▲調査員身分証明書(顔写真・公印入り)

第5回道央都市圏PT調査における広報活動等

第5回PT調査で実施を検討する広報等

- HP、SNS、広報誌、テレビなど様々な媒体を活用した広報を企画。(詳細は検討中)
- 各自治体が発行している広報誌に各誌面に合わせた記事を掲載するなど、関係自治体の連携により広報を展開。
- キャラクター広報・街頭等の調査協力依頼で広く周知し、信頼性向上・協力意欲の喚起を図る。

HP

- ・ 協議会HPの設置、情報発信
- ・ 北海道、構成市町村のHPも活用
- ・ 回答者からの信頼感を得やすい

SNS

- ・ X、LINEで「PT調査のお知らせ」「PR動画」「協議会HP」を発信
- ・ より多くの住民が情報を入手するため、各自治体アカウントや道知事、首長へリツイート（拡散）を依頼
- ・ 若年層への認知効果が高い

ポスター・デジタルサイネージ

- ・ 駅構内、区役所モニター等で事前周知



広報誌

- ・ 各自治体広報誌での調査協力依頼
- ・ 協議会HPの情報掲載



街頭PR・キャラクター広報

- ・ 札幌駅前地下歩行空間でのPRイベントで調査協力依頼
- ・ キャラクターを広報塔に用いることで親しみやすさを出す
- ・ PR動画への出演依頼

▼サッポロスマイルPR大使

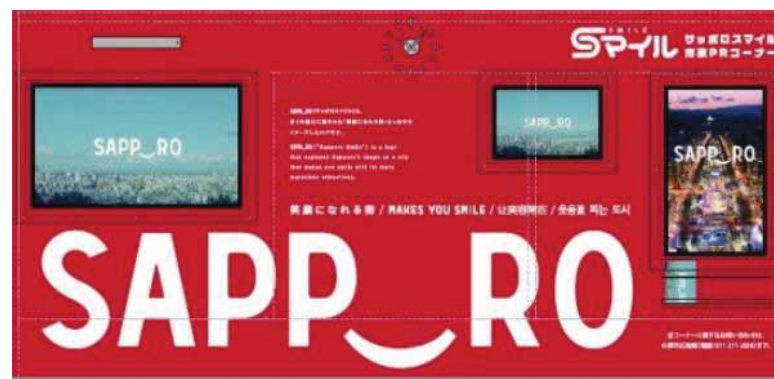


テレビ・ラジオ、新聞

- ・ 調査目的、回答方法等の発信
- ・ 中高年層への認知効果が高い

◀サッポロスマイル市政PRコーナー
(モニター広報)

◀地下鉄掲示板

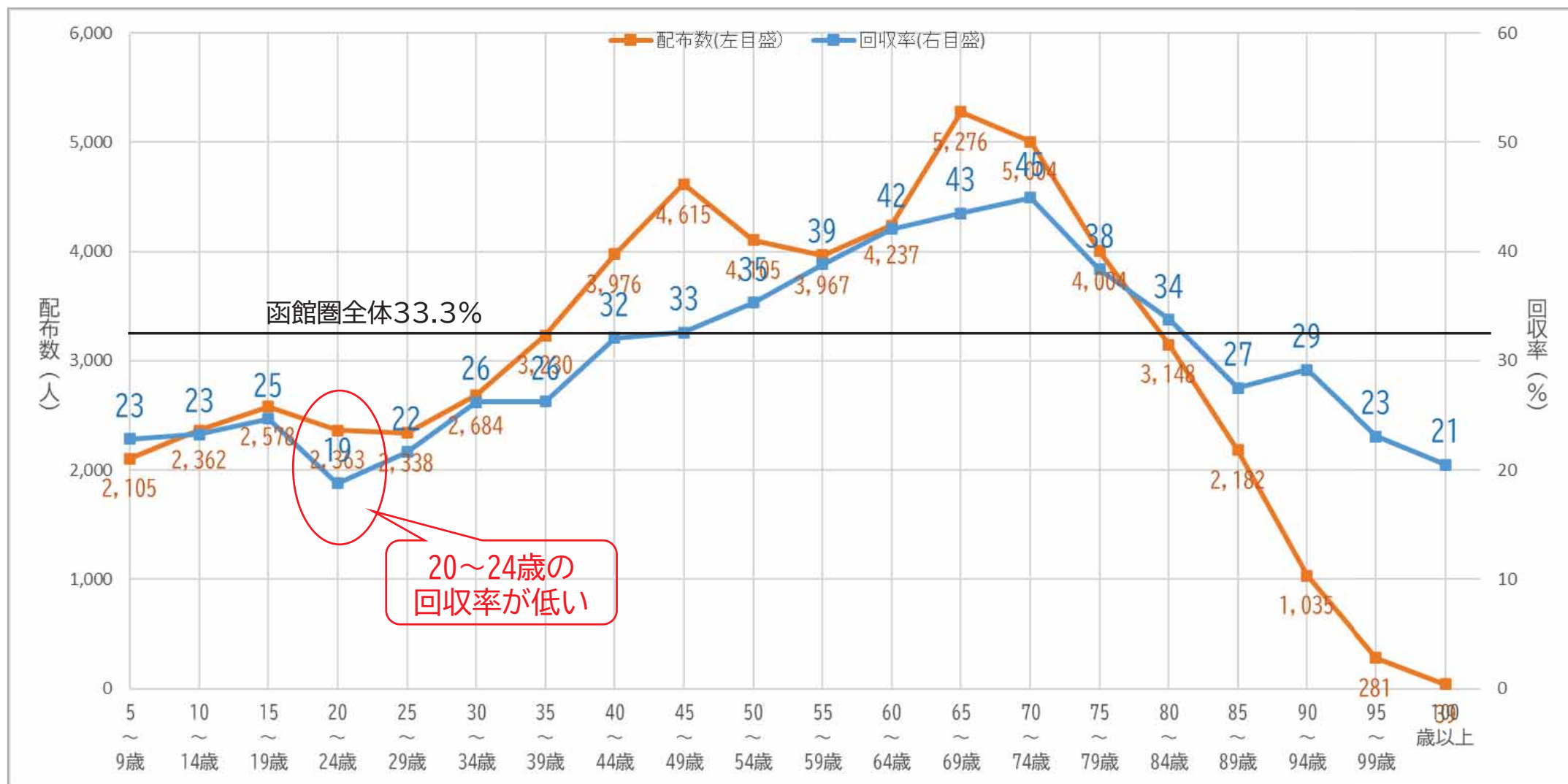


第5回道央都市圏PTにおける広報活動等

効果的な広報の検討(函館圏PT調査の回収状況による分析)

- 函館圏PT調査(R1)では、「40歳未満」・「85歳以上」の回収率が低く、特に20歳～24歳の回収率が最も低い(約19%)。
- 広報の検討に際しては、**回収率が低い世代の回答を促す手法・内容を意識する**ことが重要。

※ PT調査は世帯を対象とするため、回収率を高めたい世代と回答者が異なる可能性があることにも留意が必要。



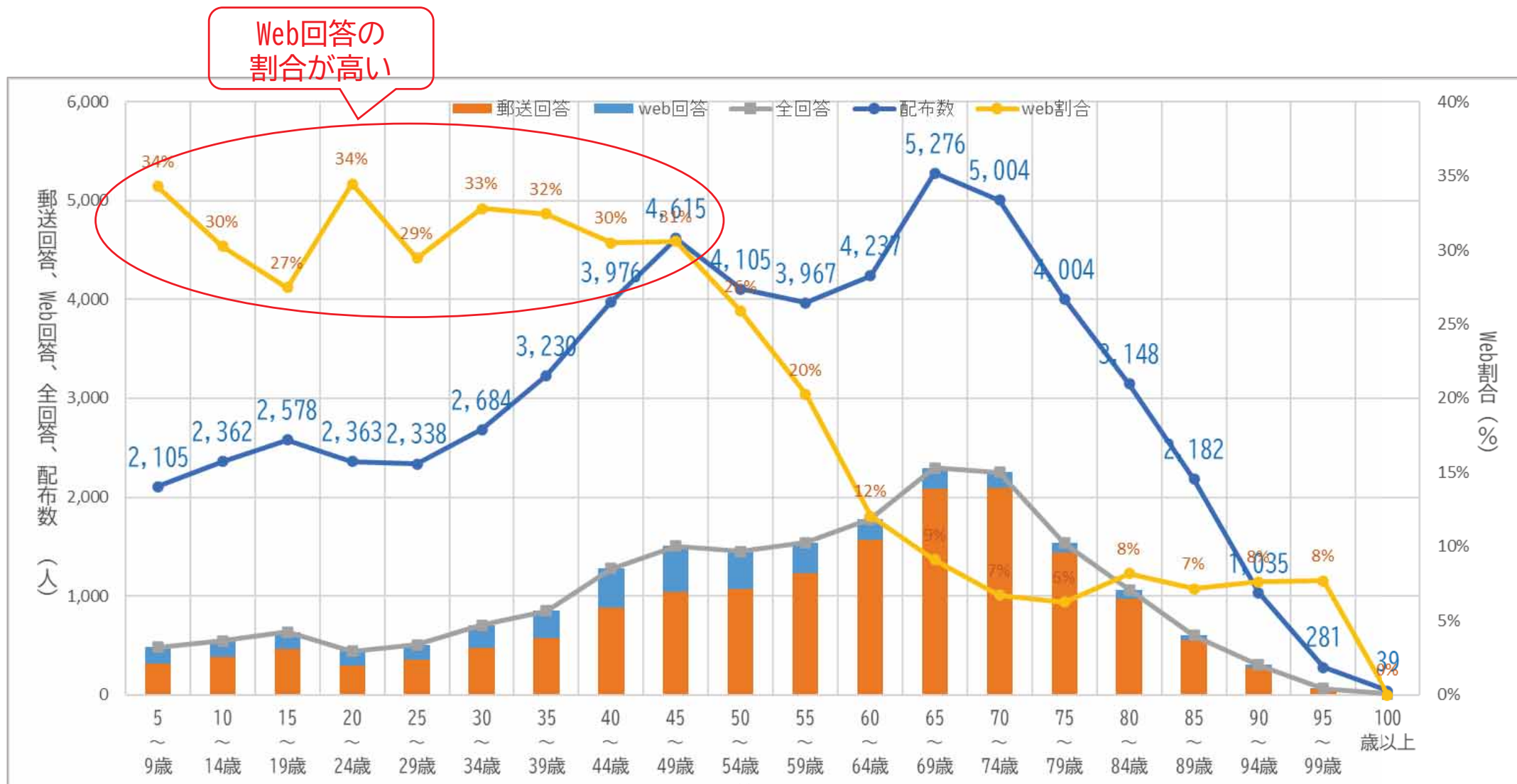
▲ 函館圏PT調査の年齢階層別回収率(5歳区分)

第5回道央都市圏PTにおける広報活動等

効果的な広報の検討(函館圏PT調査の回収状況による分析)

- 函館圏PT調査(Web・郵送併用)の実績では、「50歳未満」においてWeb回答割合※が比較的高くなった。
- 年齢階層別改修割合(前頁)で回収率が低かった20歳～24歳はWeb回答割合が最も高かった。

※「Web回答割合」は、回収した全回答数に占めるWeb回答数の割合。



▲函館圏PT調査のWeb回答割合(5歳区分)

調査データの公表

- データの公表・提供の方法（都市交通調査ガイドスより）
- 都市交通施策が総合化する中で、PT調査についても**取得した総合的なデータをより幅広く活用**していくことが期待される。
 - **民間企業や研究機関等の多様な主体がデータを活用**する上では、データ公表の仕方についても標準化など工夫が大切。
 - 調査データの公表にあたっては、**統計法や個人情報保護法等の関係法令への対応を考慮**することも重要。

データ区分	公表・提供の方法
集計データ (基本集計含む)	① 集計表 (csv 形式) のホームページへの掲載 ② 可視化ツール等のホームページへの掲載 ③ 都市交通調査プラットフォームへの掲載 ④ e-Stat (政府統計ポータルサイト) での公開※
マスターデータ (調査票情報)	統計法、統計調査条例、個人情報保護法等に則って対応

※統計法上の一般統計調査に該当する三大都市圏のパーソントリップ調査が対象

▲データ区分と公表の方法

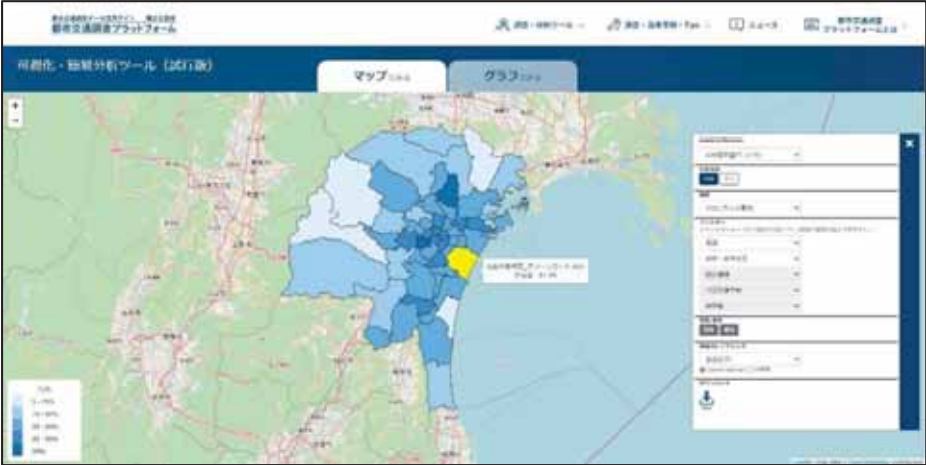
出典：都市交通調査ガイドス（令和6年6月 国土交通省都市局）

- 上表①・②の対応は、各地方公共団体のホームページ等にデータを掲載することが考えられる。
- 国土交通省のホームページである「都市交通調査プラットフォーム」にデータを掲載することで、①・②の対応を行うことも考えられる。
- 個別のトリップ情報を含むマスターデータの提供については、統計法や個人情報保護法などに則り、適切に扱われる必要がある。

集計データの公表事例



▲パーソントップ調査データ可視化ページ 東京PTインフォグラフ



▲都市交通調査プラットフォーム 可視化・簡易分析ツール（試行版）

基本集計項目の公表

- 都市圏の移動実態の基本的な特性を理解するために行う集計であり、移動に係る基本特性を表す指標が集計項目となる。
- 過去調査や他圏域との比較などを通じて、移動特性やその変化を把握することが可能となる。
- 拡大推計の結果をチェックする観点からも、基本集計を実施することが望ましいとされる。
- 都市交通調査ガイダンスに基づき、基本集計項目は公表することとし、その他の項目は都市圏で独自に検討を進めたい。

項目			単位	集計区分
基礎集計項目	外出率	外出率（居住地ゾーン別性別年齢階層別）	%	性別：3区分 年齢階層：18区分
		外出率（居住地ゾーン別就業形態別年齢階層別）	%	就業：4区分 年齢階層：18区分
	1人1日当たりトリップ数	1人1日当たりトリップ数 （居住地ゾーン別性別年齢階層別目的種別）	トリップ / 人	性別：3区分 年齢階層：18区分 目的種別：6区分
		1人1日当たりトリップ数 （居住地ゾーン別就業形態別年齢階層別目的種別）	トリップ / 人	就業：4区分 年齢階層：18区分 目的種別：6区分
	発生量 集中量	ゾーン別目的種別代表交通手段別発生集中量	トリップ	目的種別：6区分 代表交通手段：7区分
	OD量	ゾーン間目的種別代表交通手段別OD量	トリップ	目的種別：6区分 代表交通手段：7区分
その他	ゾーンコード表		—	—
	ゾーンGIS		—	—

▲標準的に公表するデータの一覧

出典：都市交通調査ガイダンス（令和6年6月 国土交通省都市局）

その他の集計項目の例

- 拡大のための素集計
 - ・有効世帯数、個人数
 - ・性別年齢別人口、構成比
 - ・就業形態別人口、構成比
- 個人・世帯属性
 - ・就業別人口
 - ・職業別勤務先、通学先
 - ・自動車保有率
 - ・性別年齢別免許保有率
- 生成原単位関連
 - ・家族構成別目的別トリップ数
 - ・就業形態別目的別トリップ数
- 自動車関連
 - ・目的別施設別駐車発生時間分布
 - ・ゾーン間有料道路利用率
- 移動活動時間関連
 - ・居住地ゾーン別性別年齢階層別平均移動活動時間
 - ・居住地ゾーン別属性別平均移動活動時間

など

調査方法とスケジュール

検討会における議論

□ 紙の調査と同じことをWebでも質問するというのが一般的であり、どちらでも回答できるように調査設計を行うのが理想。

【Web調査・回答の優位性】

調査の品質向上

□ 入力漏れやミスに対してのチェック（警告）機能

回答負担軽減

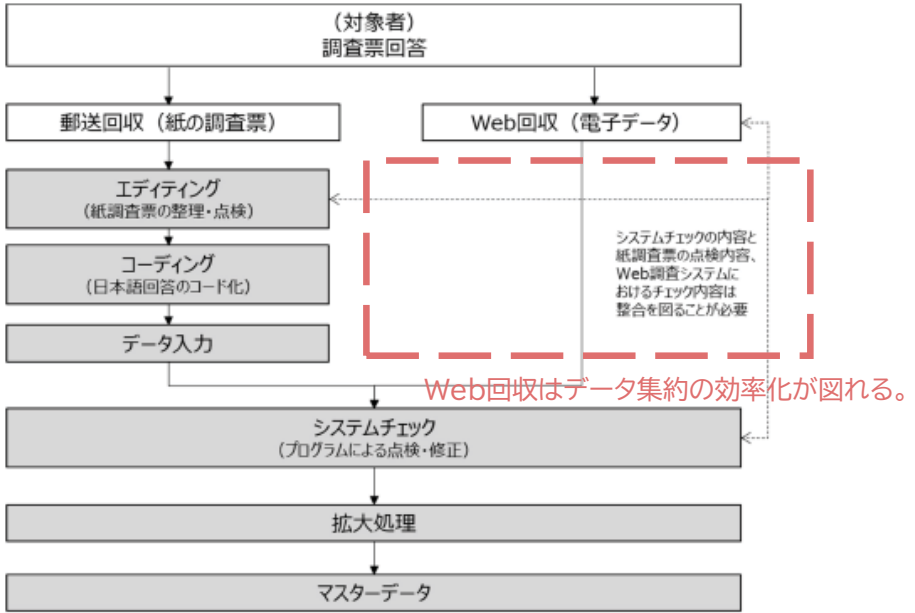
□ GPSの対応や地図上での位置情報選択機能
□ 選択肢の提案機能

データ集約の効率化

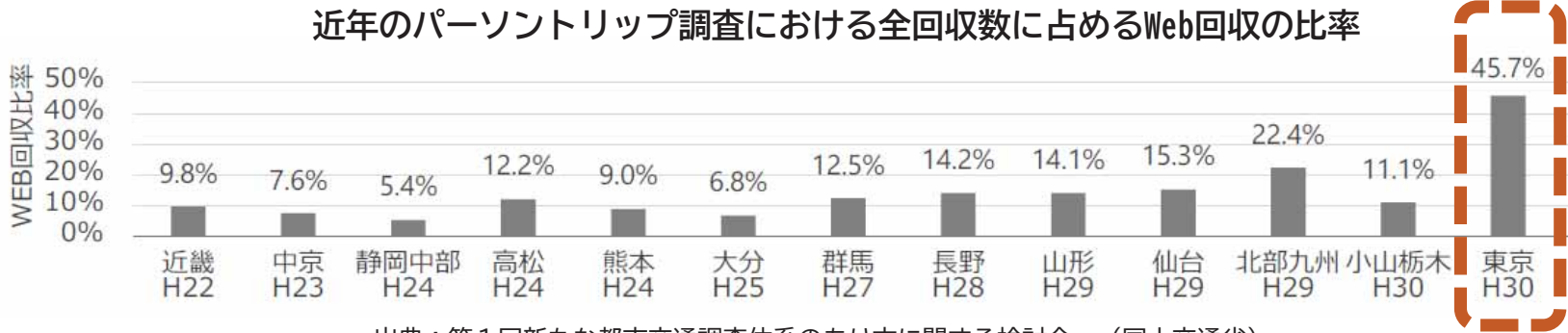
□ 紙の調査で必要だった整理・点検作業の効率化

【Web先行調査・併用調査の比較】

	Web先行調査	Web併用調査
調査方法	○ Web調査を先行実施。 ○ Web回答がない対象者に調査票を郵送配布・回収。	○ 調査票とWeb調査を並行実施。 ○ 回答者が回答方法を選択。
メリット	○ Web併用に比べてWebの回答数が増える傾向。 ○ Web回答者には紙の調査票を郵送する必要がなくなるため郵送費用を削減できる。	○ 調査期間を短くすることができる。(降雪の影響を受けにくい)
デメリット	○ Web併用調査に比べて調査期間が長くなる。	○ Web先行調査に比べてWeb回答数が少なくなる。



▲データ整備の全体像
出典：都市交通調査ガイダンス（令和6年6月版）

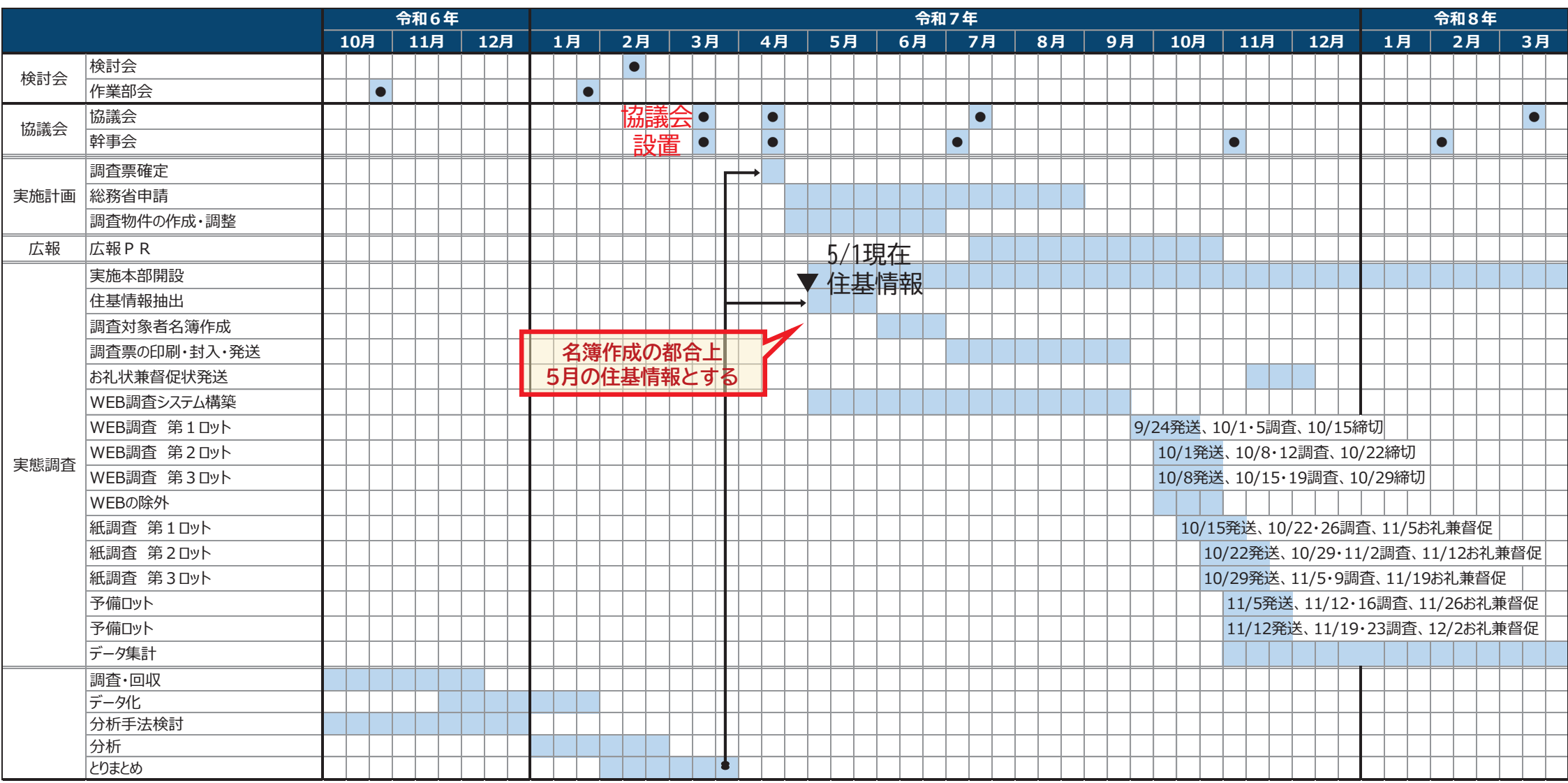


出典：第1回新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会（国土交通省）
東京都市圏のみWeb先行調査を実施

調査スケジュールの検討（全体）

Web先行型スケジュール（案）

○令和7年3月には協議会を設置、その後調査票を確定、総務省申請。試行調査結果を踏まえて、調査実施計画を再検討。
○住民基本台帳の抽出は5月、実態調査は令和7年10月にWeb調査を先行、10月～11月にWeb回答と調査票による回答の併用調査を実施、年度中に1次集計を実施。



調査スケジュールの検討（Web調査関連）

Web調査について

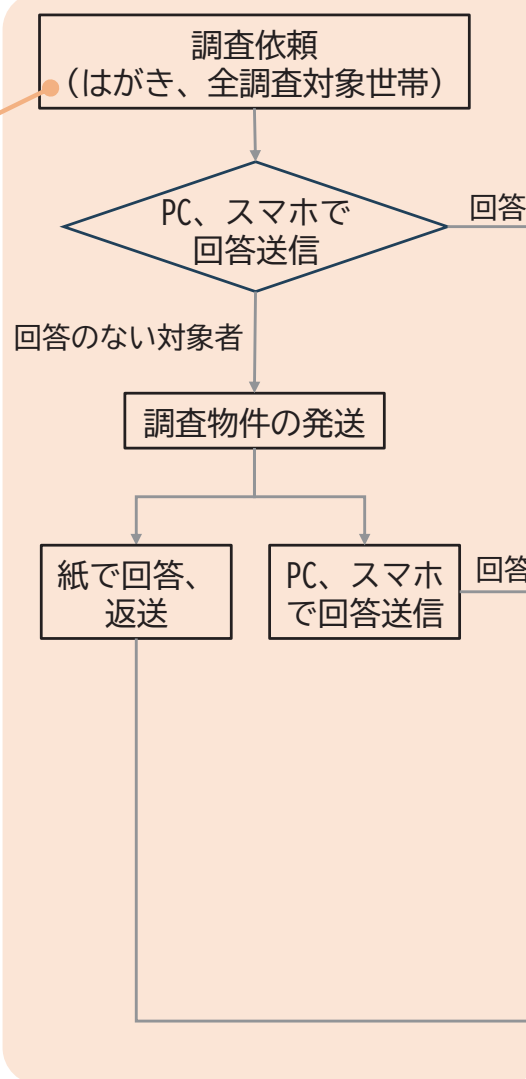
- 令和6年7月に国土交通省がwebシステムを公表しており、これをベースに調査項目の追加、削除を行いシステムを構築予定。
- 開発元やシステム設計の専門家にヒアリングを実施し、システム構築期間を精査。
- システム設計に際しては、位置情報取得の工夫、QRコード等を用いた回答、問い合わせの簡素化などに留意するとともに、近年実施されたWeb調査実施結果も情報収集。

調査依頼はがきのイメージ

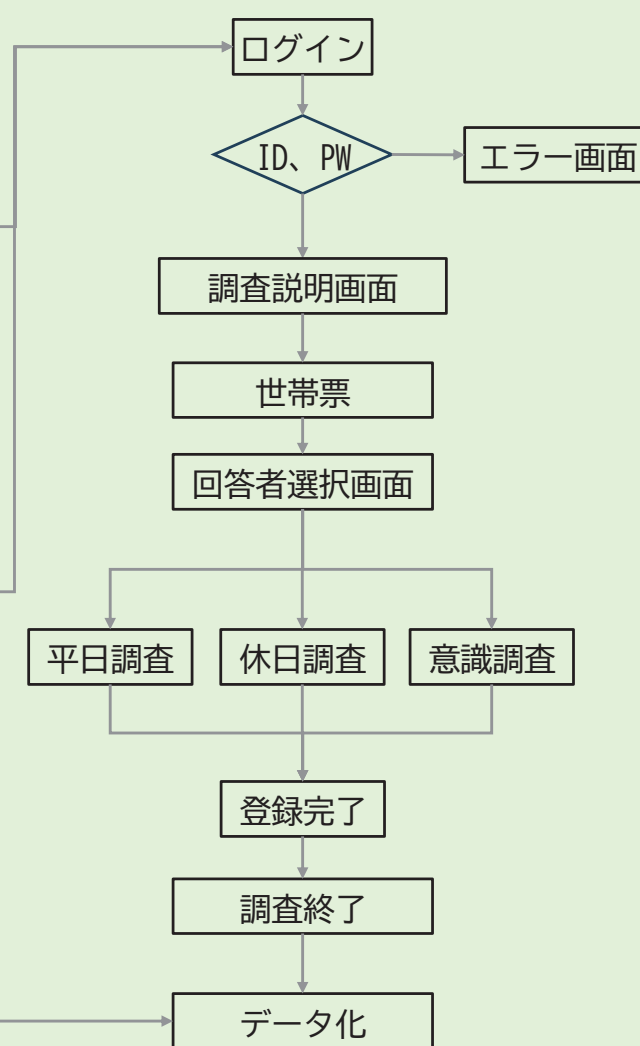


出典：都市交通調査の効率化等業務支援システム設計書（国土交通省）

【Web先行調査の流れ】



【Web回答の流れ】



【現段階での留意点】

- Webシステムについては、国のシステムを基本に改良予定。（ソースコードが提供されているため、今後は調査項目の追加削除等を行う。）
- スケジュールは今年度は概略検討を行い、令和7年4月に調査票内容を確認後、詳細設計を実施。
- 位置情報は地図上選択機能の導入を検討。
- ログインIDで個人情報を識別。
- 入力途中で中断した場合でも、後から再開できるよう設計。

今後の協議会・幹事会

協議会・幹事会の開催予定

- 令和7年秋期調査実施から手続きに係る期間を逆算し、**令和7年4月に調査票の内容を確定させる**ことを目指す。
- 夏頃にも協議会を開催し調査実施に係る議論を深めるとともに、**年度の後半では調査結果を活用した分析に関して議論。**

○ 検討スケジュール

	令和6年度(2024年度)			令和7年度(2025年度)											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討会		④													
作業部会	⑦														
協議会			①	②				③							④
幹事会			①	②			③				④			⑤	

【次回】
4月25日予定

○ 各会議での議論テーマ

- 第1回協議会(第1回幹事会合同)
 - 協議会の設置と組織体系
 - 検討会で議論してきた内容の振り返り
- 第2回協議会(第2回幹事会合同)
 - 調査票の承認
- 第3回幹事会
 - Web調査システムの確認
 - 抽出率、ゾーニング、調査方法、広報計画の確認
- 第3回協議会
 - 第3回幹事会の議論内容の承認
- 第4回幹事会
 - 調査の進捗報告
 - 分析に向けた検討事項の共有
- 第5回幹事会
 - 調査の集計結果報告
- 第4回協議会
 - 調査の集計結果報告

本日の議論・今後の議論に関して

- 令和7年度の後半からは、**調査結果の集計・分析方法、道央都市圏における将来的な交通体系など、次年度以降の検討の方向性を見据えた議論**を予定。
- 望ましい交通のあるべき姿を考える上で、**議論が必要と考える事項・事業実施上のお困りごと**など、本日ご意見をいただきたい。
- なお、調査票の**回収状況**などは適宜共有を図り、予算の制約等を踏まえながら**可能な範囲で1次集計・データ整理を進める**考え。